

醇風地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日 時 平成24年7月6日(金) 19:00~20:35
- 2 会 場 醇風地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 33名
市側出席者 13名
竹内市長、深澤副市長、羽場総務部長、松下企画推進部長、堀防災調整監、大島都市整備部長、星見都市整備部次長、教育委員会事務局次長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長
＜事務局＞安本協働推進課長(司会)、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明(危機管理課参事)

5 「協働のまちづくり」についての報告

(醇風地区公民館長) ※スクリーンに基づき説明

まちづくり協議会の発足から説明いたします。発足は平成21年3月27日、平成20年度末ということで現在5年目に入っています。まちづくり協議会の構成は、醇風地区を構成する自治連合会、社会福祉協議会など17団体が、以前は個々に取り組んでいたことを見直して、相互に連携し、安全・安心で暮らしよい地域づくりを目指し、公民館を活動の拠点として取り組んでいます。続いて、まちづくり協議会の組織について説明します。自治連合会の役員、会長、副会長、理事、醇風地区各種団体の代表17名、計36名で役員専門部委員を構成しております。

また、まちづくりの目標について、平成21年に全戸対象にアンケート調査を行いました。どのようなまちづくりを進めてほしいかという15の選択肢、自由記述等々を参考に目標を設定しました。まず、みんなが参加するまちづくり、次に、安全・安心で美しい環境のまちづくり、3、福祉と健康のまちづくり、4、豊かなふれあいと地域に誇りを持つ人づくりということで、専門部がそれぞれ担当しています。

次に順調に進んでいる取り組みを1事例挙げるようにということで、これはまちづくり協議会が主催するイベント、「醇風ふれあい祭」、「醇風地区防災訓練」、「醇風夜ざくら道路」という3大イベントを実施してきて、現在定着をしています。

まず昨年度の11月5、6日、3回目の醇風ふれあい祭を、会場は醇風小学校の体育館駐車場、公民館とその駐車場で行いました。特に初日は大雨で心配しましたが、参加者は1,400名で、1、2回よりも増えて新記録になっています。内容は、お手玉遊びやアートバルーンということで長めの風船に細工をして、アート、芸術ということで作品を作って楽しみました。ふれあいステージは、2日目の午後、芸能発表を行っています。昨年と一昨年度、西中ブラスバンド部のステージ発表で幕を開けました。中学生の参加で、その保護者もたくさん新しく参加されました。

作品展示は、以前からあった公民館祭の名残ですが、公民館内の2階の部分以外に小学校を借りて、小学生全員、全校児童の作品、それから中学生の作品ということで、体育館後ろ半分を使って展示をしました。販売飲食コーナーでは、醇風小学校、公民館駐車場にテント村というような様子で、2日間開きました。交流している鹿野町のシシボタンの会さんからの出店や、醇風地区の業者さん、役員さんのお店ということで、人集めには、大切な役割をしています。

次に、防災訓練を昨年度、24年2月26日日曜日、大雪にたたれない時期ということで、ここに設定をしました。今回は津波、大津波警報を発令という想定で避難をしています。そのために川外は西中学校、川内は醇風小学校の2階に一時避難をして、全員が醇風小学校に集まって、講演会を受けるという訓練をしています。参加者は147名です。地震に伴う火災発生を想定して煙の中の飴を拾うというもので、煙を濃くするように今年はスモークマシーンを2台にして訓練をしています。それから、地震災害に備えての基本的な心構えというようなことを今年はお願いをして、講演していただきました。

次に、「醇風夜ざくら道路」。これは1年遅れでスタートしていますので、2回目になります。4月1日にぼんぼりを取り付け、設置は15日間で、花が揃った7日～15日に点灯しています。醇風小学校児童の274作品を湯所橋から鹿野橋まで柱1本おきぐらいにずらっと飾りました。作成したぼんぼりを加工したり、ライトを入れたりして、祭りまでに半年近くかけて準備をしています。

それから、ぼんぼり設置前に袋川の土手を掃除しています。小学6年生全員の応募があった川柳の中から、選考会で優秀賞に「ぼんぼりのあかりで光る夜（よ）の桜」、醇風大賞に「守りたい僕らの桜永遠に」が選ばれました。

現在の課題問題点としては、参加者がまだ固定化する傾向が続いています。しかし、何回も来られる方も多く、このリピーターをさらに広げるために、まず参加をしてみようというきっかけ作りに努めたいということです。広報活動や町内会への声掛けなどの地域づくりが大切だと思っています。次に広報が正確に伝わりにくく、防災訓練では、いつ、どこに集まるということが思い込みで、放送がある前に来られたりとか、いろいろなことがありました。広報車で回っても、大きい、小さいとか、日曜日に大きな声をするなどかいろいろありまして、なかなか難しく、このあたり、頑張っていくかといけないと思っています。そのためにも、情報の共有や地域づくりを推進する方策、情報の重点期間として広報車を何日も出すとか、いろいろなことを考えていかなければいけないと思います。

まちづくり協議会の活動は、今軌道に乗ってきています。今、何をしなければならぬのか、企画とか、準備とか、それが分かってきています。見通しをもって活動が展開できるように次第になってきました。さらに各専門部を中心に主体的に活動を進めることができるようになってきています。これから、公民館がまちづくりの中核としての機能や役割を発揮できるように、職員はもちろん地域全体で取り組むという決意を新たにしているところです。どうもありがとうございました。

6 地域の課題についての市長等との意見交換

1 出合橋の拡幅・補強または歩道橋の新設について

<地域課題>

出合橋は醇風小学校児童332名のうち約半数の児童と西中学校・北中学校、高校生の通学路となっており、通学時間帯の車の通行量も多い。出合橋は幅が狭く、対向車のすれ違いは困難であり、歩行者は常に危険にさらされている。雨天や積雪時の危険性はさらに高まる。出合橋は建造されてから70年以上経過し、鳥取大震災、鳥取大火にも被災し老朽化も進行している。歩行者（特に子どもやお年寄り）の安全確保と交通事故の未然防止のために、出合橋橋の拡幅・補強または歩道橋の新設を切に要望します。



<担当部局の所見等>

【都市整備部】

現在のところ歩道の設置や歩道橋の新設は困難です。出合橋は鳥取大火後の昭和29年に架けられたコンクリート橋で架橋後58年経過しています。平成18年度に点検調査を実施し「詳細調査の必要性がある損傷が認められ、状況に応じて補修を行う必要性がある」との結果が出ています。平成10年度には落橋防止工事を施工し地震時に橋が落ちない施設となっています。従って、架け替えが必要な橋と判断していません。（特に状況が悪化している様子はないが平成24年度に再調査の予定です。）

鳥取市は1,341橋の市道橋の管理をしており、これらの長寿命化を図るため、橋の損傷度に応じた修繕計画を平成24年度に作成し、ランクの高いものから計画的に維持補修することとしています。

歩行者の安全確保のため通勤・通学時間帯の一方通行化が出来ないか、町内会や交通安全対策協議会と協議したいと考えています。

（都市整備部長）

出合橋は鳥取大火のあと、昭和29年に架けられたコンクリートの橋で、58年経過しています。鳥取市は現在1,341の市道橋の管理をしていまして、これらの長寿命化を図るために橋の損傷度合いに応じて修繕計画を作成し、ランクの高いものから計画的に維持補修している状況です。特に地震があると、橋桁のところが揺れが激しく影響を受けますので、出合橋については、平成10年にその補強をしまして、橋が落ちることを防止する工事を行っています。ですから、地震のときに橋が落ちることはありません。平成18年度には全市の橋の点検調査を実施し、詳細な調査が必要であるという結果が出ましたので、さらに詳細な調査に進みました。平成18年の時点ではこのままで使用可能であるという状況になっています。ただ、何分古いので、5年経ったところで今年度、状況が変わっていないか、再点検を行う予定にしていまして、今後も一定期間ごとに再点検は繰り返していくということで、構造面の安全性については最大限配慮させていただいています。

一方で、歩行者の皆さまの安全の話についてですが、迂回路の選択肢が少ない地域でや

はり損傷している橋があります。その修繕を順次進めなければならない状況にありますので、安全面について確保されている橋の拡幅や新設は、今現在は困難な状況にあります。そのため、歩行者の皆さまの安全の確保に向けて、通勤・通学時間帯だけでも一方通行化をさせていただけないか、町内会や交通安全対策協議会の皆さまと協議をさせていただきたいというのが市としての考え方です。

(地元意見)

出合橋は今年度、安全確認、調査をやっていただけるとのことですが、去年かなり水が出たことがあります。台風か何かでかなり水が出ましたが、その後、出合橋の橋脚の根元のところがかなり崩れています。それで、この補修といいますか、大丈夫か手を打ってくれという内容を町内会の方から、市や県や国土交通省あたりに投げかけた経緯があります。それで、応急的に石を盛って金網で固定して、崩れを防いでいるようなところが、出合橋の土台のところと、それからもう1つは下水から入ってくる川の土手のところの2ヶ所程あります。そういうところがあるものですから、出合橋に関しては、この橋大丈夫かなど、安全上の問題をちょっと頭の中に残しています。地震で崩れることはないと書いてあるんですが、地震で土台がさらわれて橋が崩れてしまっても橋は残るんですかね。その辺のところをしっかりと調べていただきたいと。その他に実用上の内容としては確かに幅が狭いんで、歩行者、自転車、結構たくさん見ますが、車との往来のときに危険なので、広くなれば使いやすいとは思いますが、それ以上にやっぱり安全のこと、橋そのものに対する安全体制、私は非常に危惧しているものですから、その辺のところをよろしく願いします。

(都市整備部長)

橋は基礎の方までコンクリートですので、土や石が流れたことですぐ危なくなるということはないんですが、確かにむき出しになると、流れてきたものが直接当たるようになるとか、あるいは土の重さで押え込んでいる部分が不安定になる可能性はあります。基礎は壊れてないということは確認しておりますが、この土の被りをどのくらいにしておくべきなのかというところは、きちんと点検の中に含めさせていただきたいと考えます。交通の方につきましては、引き続き協議をさせていただければと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

<補足：道路課対応方針>

平成24年度に国の施策による橋梁点検を行いますので、橋脚についても確認を行います。また、点検結果を踏まえ橋梁長寿命化計画を作成する予定であり、出合橋についても修繕を行い長寿命化を図る計画であり、現段階で架け替えの予定はありません。実施可能な対策について協議する場を設けます。

(地元意見)

時間帯の一方通行という話は前回だめだということで、話がついているはずなんですよ。再度これやられるんですか。出合橋の両サイドは一方通行になっています。ここは出合橋

を挟んで、一方通行が逆方向になっていますので、橋を一方通行にすると非常に不便になってしまうんです。まず一方通行なんて不可能だと思います。20年のときに話がしてあると思いますし、この橋の架け替えのために迂回路の橋を作らなければだめだということで、非常に金がかかるからという金銭的なこともおっしゃられました。ただし、そのときには、迂回橋はいらないから歩行者だけが通れるように仮の歩道を付けてもらったわけですという話もしていたんですが、これに関してまったく話が進展してないようですけどいかがでしょうか。

(都市整備部長)

常時一方通行はお断りをいただいているということは認識していますが、交通安全上、通学時間帯だけでも相談させていただけないかというつもりで申し上げました。ただ、それについても、もうお答えをいただいているということでしたら、持ち帰りまして、もう一度検討させていただくつもりです。それから、人道橋、歩行者空間の増設については橋の構造上と言うより、58年経っていますので、つけ加えた歩道の部分が地震のときに危険な状態になってはいけけないので、現在外から見て安全性が確保されていますが、橋のどこにどういう材料が使われているかや、中の構造がどうなっているのかという資料が実はありません。ですから、例えば鉄筋を打ちこんで歩道を広げた場合に、安全性の確保が確認できない状態ですので、どうしても安全な歩行者空間を新しく作ろうと思うと、まるごと新しく人道橋を作らなければならないという状態に陥っています。それで、現在構造的には安全性が確認されている橋をなんとかうまく使う方法を相談させていただけないかという説明をさせていただいています。

(地元意見)

前回と話がくい違っている部分があるようですが、要するに橋全体を架け替えるならば、相当な金がかかるし、そのためには迂回の橋を別に作らなければならないということも聞いています。しかし、それは必要ないので、歩行者だけ通れば車はその区間は通れなくていいという話で終わっています。それと、歩道は出合橋そのものを補強して付けるのではなく、歩道を単独で作っていただきたいという話をしていたはずですが。

(竹内市長)

今の話は継続した案件で、皆さんの要望に応えるべく検討して、また改めて検討して出てきたところが今の内容です。

鹿野橋から湯所橋の間を見れば、かなり

多くの橋があって、橋の密度が高いところです。この出合橋については、耐震性を高めることもいろいろやった上で、まだ使える状態にあり、また今年度点検をするということで、これから先の方針をまた立てようとしているということです。独立した歩道橋の橋を架



けるのではなく、歩道をきちんと整備するならば、やはり新しい橋を架け替える段階での取り組みであるべきであろうというのが1つ。しかし交通安全ということ考えれば、通勤通学時というか、朝の時間、夕方の時間に一定の幅をとって、通行する人間と車との共存を上手に考えなきゃいけない。車も往復で通れるとともに、人が通れるということが厳しいという前提の中で、何を選択して何を考えたらいいいのかということを出てきたのが、通勤通学の時間帯など、朝夕の時間に限ってどちらかを一方通行にするということです。その一方通行がどうあるべきかなど含めて、再度協議した上でやってはどうだろうかというのが、今の段階の鳥取市としての考え方なんです。一番今問題にされているのは、通学時の小学生・中学生などの子どもたちの安全で、これは非常に重要な点です。ですから、新しく別に歩道橋を架けるという話についても検討し、この橋の活用についてもいろいろ考えた上で、なんとかこの全体的な状況を見ながら、できることをしようという考えから提案していることをまず理解していただいて、その上で、その出発点の中で様々な意見があると思いますが、そここのところで少し意見交換もできたらと希望しているわけでありませぬ。新しい橋を架けたり、全部橋を架け替えたり、それから別の歩道橋の橋を架けるという取り組みは、相当な経費を要することが明らかです。最近でも隣の湯所橋の整備がされ、この橋についての整備もいろいろと取り組まれています。環状道路ができて、丸山の交差点から湯所橋に至る交通量も以前に比べれば減っていると認識していますが、いろんなことの中で、この橋を双方向で車が通れるようにすることと、子ども達の通学の安全とをどう両立させるのか、これは毎日の話ですので、少なくとも当面はという前提で、今日提案しているような内容を検討できないものでしょうか。

(地区会長)

私も自治連でこの出合橋の通行量の調査をしましたので参考までにお聞き願いたいと思います。7月4日水曜日、天候はくもりです。7時～8時の小中学生・高校生が学校に登校する時間帯です。小学生が93人、これはあくまでも醇風小学校です。それから、中学生が西中が4人、西中の子は、出合橋は通りません。というのは、向こうの有門橋を通りますから西中の子はこの橋は通りません。北中が19人、高校生が32人、一般社会人が139人、トータルして287人、7月4日同じく水曜日の下校時、15時～16時、小学生が110人、通学路は決まっていますが、時々違った道を帰る子もいて、西中が11人、北中が15人、それから高校生が14人、一般社会人が95人、トータルして245人、あくまでもこれはこの日だけのことですから、1週間ぐらいやらないと、正確なものとは分からないじゃないかと思っておりますが、とりあえずそういうことです。

(地元意見)

この出合橋は、鳥取大火があった後に新しく橋1個付けられた。その当時は、自動車も小さいが、現在は車が大きくなっています。それと同時に、相生町は、世帯数にしても現在にしたら多くなっているでしょう。そういうことを考えていただきたい。人通りも多いし、特に材木町から相生町に入る方が危険なんです。出合橋の幅が狭いところにトラックがよく入りますので、そういうことも考えていただきたい。5、6名も並んで通る橋というのじゃないんです。2名ほど並んで通れる歩道を付けていただいたらいいと思っている

んです。賀露にも歩道橋が付いています。今、大橋になるんですか、前の郵便局があったところ、前で言ったら1区、2区のところにも歩道橋がありましたね。それも早いこと、あそこも所帯が少なかったのに、歩道橋も付いています。そういうことも考えていただいたら、歩道橋もそういう値段もかからないと思います。1つそのところを考えてみてください。

(竹内市長)

ありがとうございます。通学時間帯には、車両以外の自転車や歩行者で相当数のかたが通勤通学に通られているということですし、安全のことは私も理解できることです。昨今、通学の子どもたちに車が突っ込むというような悲惨な事故も見受ける状況ですので、そんなことはあってはならないという気持ちからも、車が一方通行であれば幅に余裕ができますので、それがいいかなと。昼間あまり子どもが通らないとき、今度は、数は少ないけれども高齢者のかたが通られたりしていますので、先程言われた7時～8時、これを少し幅広げて7時～9時ぐらいまでとか、あるいは夕方も3時～5時までとか、何かそういう対応があるかなとも思います。それがもし、どうしても難しいとなれば、歩行者だけの橋という意味で、歩道橋の新設は7,700万円ぐらいかかるというふうに概算で試算しているようですが、そういうようなことを考える。

しかし、その橋も考えてみると、今の元の出合橋を架け替えるときには、1つの橋にすればいいわけなんで、全く無駄な存在になりかねません。どういうふうにしていくかは、やっぱり熟慮を要するわけです。確かにいくつか市内には、歩道橋が並行して架けられているところがあります。そういう点は参考にして、歩道橋という方向しかないのかどうかというあたりが、今日のこのことに関しての1つの議論のポイントだと思います。他のかたのご意見も、もしあれば聞かせてもらったらいいかなと思います。いかがでしょうか。

(地元意見)

出合橋の架け替えをやるとしたらいつぐらいになるか、まだ分からないんですか。そうすれば、だいたいその辺までは何とかしようとか、皆さんが思うんじゃないですか。

(都市整備部長)

架け替えの時期ですが、現時点ではまだ定期的に検査をしていけば、使用可能な状況という以上のこと、詳細いつ頃まで持つだろうですか、そういったところまで定かでないというのが実態です。

(竹内市長)

この出合橋の問題はずっと継続して議論になっていて、私も大変苦慮しているのが実情です。この部の考え方というところで、歩行者の安全確保のため、通勤通学時間帯の一方通行化ができないか、町内会や安全対策協議会と協議したいと考えていますと述べていますが、いろいろご意向を聞いて、どんなご意見になるのか、町内会の範囲もどこまでかというのがあります。利用者はもちろん醇風地区だけではなくて広いんですが、直接その橋が存在している醇風地区の皆さんからいろいろご要望もいただいているので、どうするの

がいいか、なんらかの形で協議、意見交換をしないと、今日のこの話が中途半端に終わってしまうようで、私自身も不安で、これでまた2年経ったのでは、お互いにとても不幸なことです。一方通行区間というのも1つの案ですから、これを押し付けようとは思っていません。一応こういうことができるのであれば安全性は拡大するよねということでご了解いただければ行きますし、例えば大型車の通行をこの橋は禁止するとか、またその他のいい知恵があればまた違って来るかもしれません。いろいろ協議をするということにしないと、この場だけで終わったらこの繰り返しになりかねないというのを不安に思っています。この点については自治会長さんからでもお考えをお示しいただけたらと思います。

橋の問題も、この会で終わって、またちょっと時間が経ってしまうんじゃないかと、それなりに地元も態勢整えて話し合いの場を持つやというようにしていただけるのかどうか、あるいはこういうふうに話し合ったらどうかとか、会長さん一言いただきたいんですが。

(自治会長)

今ここでちょっと2、3話をしているんですが、今の時点ででは、関係の町内会長さん、それから、橋で言えば交安協、交対協あるいはPTA、それから小中学校の校長先生方もひっくるめて話し合いの場所を設定しないと、前向きにいかないんじゃないかという気がしています。

(竹内市長)

ありがとうございます。何らかの話し合いの場でどういうふうにしたらよりいいのか、我々の案は1つの案です。合意が得られるのか、得られないのか含めて、継続して話し合うために、この辺は、うちと会長さんと、今日でなくても引き続き話し合っって、解決に向けた話し合いの場を持つということで進めたいと思いますので、いかかでしょうか。どういう形がいいか、お互いに窓口同士で話し合った上で、少し前に進むようにさせていただきたいと思います。

(地元意見)

安全性を確保するために一方通行にするという内容が出ていますが、一方通行にすることによって安全が確保できるというのは、私にはよく理解できないんです。人と車を分離する、あるいは自転車とその車を分離する、そういう分離をすることによって安全は確保できるんでしょうが、一方通行にして、これでどうして安全が確保できるのか。京都やなんかでも一方通行のところに車が突っ込んで児童が事故に遭ったり、いろいろ被害を被ったりしていますので、ここのところをちょっと説明していただきたい。

(竹内市長)

出合橋の幅が狭くて、大きな車がすれ違おうと人が通行する余地が、ほとんどないと言えらると思います。車も譲り合いをしていると思いますが、歩行者がいる状況で、一方通行でなくて相互通行で車が来ると、そういう心配があります。元々両側の道路が一方通行の道路でありますし、私として考えると、橋の上に車が1台乗った状況で、歩行者の方に注意

を向けながら安全に通行するために、その幅員の中で、歩行者のスペースが確保できるというふうに考えています。この考え方が万能だとか、これが絶対安全だとか私は言っているわけではないんですが、今より安全性が高まるということで提案していますので、いろんな話し合いの中で、より良い方法があれば、それが一番いいと思います。少なくとも、今よりは安全になるということで申し上げているということですが。

(地元意見)

その今より安全になるというのが、私はよく理解できないんです。要するに、ただ広くなる、スペース的には若干は広がりますが、歩行者と車が完全に分離されるわけではありません。要するに混在している状態で、安全が確保できるのかということなんです。

(竹内市長)

現在は橋の上が一方通行ではないんです。おまけに歩行者が双方向的に通ります。注意も散漫になって車と車、車と人の接触事故など、より危険性が高いと考えているということです。100%安全にするということは、分離の方がより安全だという意味では理解できるんですが、改めて地域の皆さんと話し合っていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(地元意見)

出合橋を1つの交差点と考えていいんですかね。要は、交差点の中央部が出合橋で、川を挟んで両方に道はありますが、信号を両方に設けて、時間的に片方に動かす、時間的に上り下りを作り制御するという考えで。そういうことができれば、安全性は若干高まるようには思いますが、あくまでも混在しているところでは、あまり理解できないなと。

<補足：協働推進課対応方針>

当該箇所については、通学路の緊急安全点検箇所にもあがっており、今後実施する通学路交通安全対策推進協議会の現地確認等において、地元にも参加していただき、実態を調査し、検討していきたいと考えます。

2 大森神社入り口交差点から品治神社間の歩道の凹凸解消について

<地域課題>

路側帯に設けられた歩道は、狭い上に凹凸が大きく、歩行者と自転車が入り混じって通り、たいへん危険である。子どもや高齢者が転倒したり、自転車がハンドル操作を誤ったりしての交通事故も発生している。積雪時や凍結時のスリップが多発していて、重症となる危険性も高い。

歩道の拡張は困難であろうが、せめて凹凸だけは解消して安心して歩行や通行ができるようにしていただきたい。車道から歩道の表面までの高さも今より低くして段差の改善をしていただくようお願いいたします。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

現況は、間口の狭い敷地が連続する住宅や商店への車の乗り入れのための切り下げによって、歩道が波打つ状態になっています。

こうした状況を解消するためには、歩道の高さを下げる方法が考えられますが、この場合、境界壁等の直しや民地側の高さ調整が必要であり、多額の費用がかかります。

しかしながら、バリアフリーの観点から、歩道の高さを今の半分程度に下げることなど、実現可能な方法により歩道の波打ちを解消したいと考えています。

交差点間ごとに全員の合意が得られた区間から事業実施を検討していきたいため、今年度から標準図面をもとに、要望に合う施工が可能か地元町内会と協議を行います。

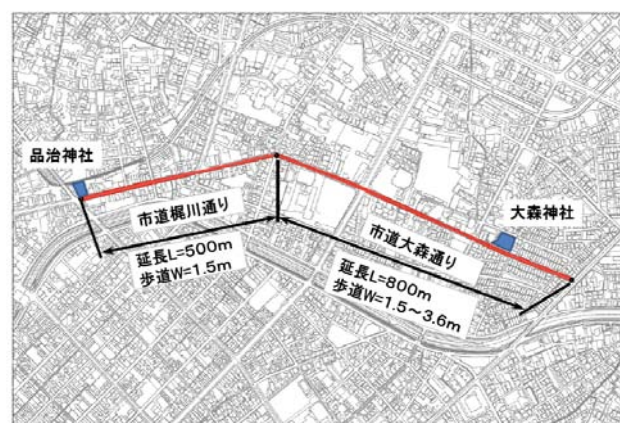
(都市整備部長)

品治神社から大森神社の間の歩道の波打ちについてです。

私も自転車で、走ってきましたが、確かに波打っています。車が出入りするために間口ごとに切り下げるため、波打ってしまうという状況になっています。こうした状況を解消するためには、歩道の高さを全体的に下げて波打ちを平らにしていくということがあり得るんですが、道路側と皆さまの敷地側と突き合わせる形で、こちらの境目はできています。そちらを歩道だけ下げてしまうと皆さまの敷地との間に段差が生じますので、いきなりこれをガクンと歩道の側を削ってしまうというのも、また危険な状態になりかねないというところがあります。緩やかに切り下げていくということをご提案させていただきたいと考えています。

交差点の間の1つの区間で滑らかになっているところとデコボコのところと混じっているとさらに危ない状況になりかねませんので、この1つの区間で合意が取れたところから取り組みを検討させていただきたいと考えています。ただ、ここの境目のところがどのような状況になるかというのは、言葉だけではちょっとイメージしづらい、話し合いもしづらい状況にあるかと思います。道路の管理上、市役所が持っている標準図面というものを持って地域に入らせていただいて、こちらの地区では、こういう状況になりますとできる限り皆さまにイメージしていただきやすい形の説明をさせていただいて、その区間ごとに合意をいただけたところから取り組みを検討していきたいというのが、市役所の考え方です。

市道梶川通り・市道大森通り



歩道の凹凸の解消



大森通り

梶川通り

(竹内市長)

町内会ごとというか、道路と道路の間ごと、区間ごとの話し合いがつけば、中間ぐらいの高さに下ろして、セミフラットな歩道にする。今は高いところはいっぱいまで上がっていますが、それをちょうど半分ぐらいの高さに抑えて、敷地からの段差も比較的小さくする。ちょっと三角をつけなきゃいけないかもしれませんが、最終的に道路路面に降りるときもあんまり大きな差がなくというか、そこは大体車がなだらかに車道に降りられるように下げてありますから、その高さをうまく調整して、フラットな面をできるだけ幅広く歩道上に取る。こういうようなことをやっていこうとしています。これを品治神社まで至るような、この区間かなり長いので一挙にできませんが、合意が得られたところからでも徐々にやっていくと。

始めればずっと続けてやりますので、合意もだんだん得られると思います。まず、うちのところの町内会の分はちゃんと合意を取り付けられるよというような話し合いが、具体的な計画を示す中で得られれば、そこからでもやっていきます。とにかくここで我々が一方通行で話ただけで終わらないで、皆さんとのやり取りというか、連携が欲しいということをお願いしておきます。大森神社前のあたりは私もよく見て知っていますが、本当にこうダゴヘゴしていて、不便をされていると思います。そのあたり各町内会とも接触を持ちながら、歩道を少し再整備していかないと、手押し車で歩こうにも大変、自転車で行こうにも大変です。前向きにこの話し合いをし始めるみたいなどころをお願いしたいと思います。

7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

田園町側の方から相生町の神社の近くまできている道路が、かなり整備されて広くなり、対面ということで、素晴らしい発展をしてうれしいことです。しかし、どこから出た話かしりませんが、神社のところから若桜街道までを対面通行にする話はどうなったんだということを聞きますが、そのところの夢と希望を与えていただけるのか。その橋のお話で順位がどうの、その修理が、お金が何千万円とかということじゃなくて、道路というものを、大きな夢を私にやってください、よろしくお願いします。

(都市整備部長)

ご質問に対して準備ができていませんでしたので、持ち帰らせていただいて、もう一度、私どもの方で経緯を確認させていただいて検討し、町内会の方にお答えさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

<補足：道路課対応方針>

大森神社から出合橋までの区間は都市計画道路ですが、事業化の目途は立っていません。出合橋から若桜街道までは道路整備の計画はありません。

(地元意見)

防災無線に関してお願いします。この醇風地区では2ヶ所ほどあると聞いています。そ

の中で相生の第二公園ですか。第一ですか。そこに設置されている無線の音響が、建物の関係等で大変通りが悪く、有効な手当てをしていただきたい。例えば、市営住宅の5階に移設をするなどしてもらって大幅に届くような格好ができないだろうかという提案ですので、どうかよろしく願いいたします。

(防災調整監)

相生第一公園へ設置してある防災無線の、いわゆる音の到達する範囲がちょっと不安定だというご指摘です。鳥取市の市内は、いわゆる相生町の第一公園にあるようなスピーカーで今、防災無線を流させていただいているという状況です。やはり一応全市域をカバーするように電柱を立て、スピーカーをつけさせていただいていますが、どうしても建物が建ったりというように状況が変わってきますと、音達区域、音の到達する区域が若干微妙に変わって来たりします。ご指摘いただきましたその相生第一公園の分につきましては、ちょっと調査をさせていただきたいと思います。

実際に相生第一公園のように音達区域がちょっと不安定だというご指摘も何箇所かありまして、これにつきましても業者さんと一緒に、危機管理課の職員現地に出向いて実際に調査をさせていただき、スピーカーの向きを変えたらどうかとか、いろいろ手当てをしたいと思います。また公民館の方を通じて、ご相談をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

(地元意見)

鳥取市の防災無線が聞こえないという件ですが、鳥取市のはおとなし過ぎるという感じで、チャイムみたいなものですが、何か聞こえないです。防災無線が鳴るとぞとサイレンで大きく音で喚起していただければ、あとは、市民はラジオなり、テレビで情報を得ますので、まず防災無線が鳴ったというのをよく分かるようにしてもらいたいと思います。

(竹内市長)

緊急の時は大きくなりますし、津波とかはサイレンを鳴らします。

(防災調整監)

防災無線の放送がおとなしいということですが、最近では例えば熱中症に注意しましょうといった注意喚起のものも流したりしています。こういったものでサイレンを鳴らすというのはちょっと。内容によって流させていただくようにしていますので、本当に緊急を要する場合で、大事な用件を言うときには音量も大音量になりますし、こちらでは直接影響はありませんが、沿岸地域ですと、地震があって津波の影響が心配される場合にはサイレンを吹鳴して、注意喚起をするということで、使い分けと言ったら変ですが、内容によって音量なり、サイレンの吹鳴とか、チャイムとか、そういった使い分けをさせていただいているということですので、ご理解いただきたいと思います。

(地元意見)

あのウーっといった大きな音のサイレンも使われるんですね。この間の津波じゃないで

すけど、ああいう時にはただ音量が上がるというよりは、サイレンのようなああいう大きな音がやっぱりいい。

(防災調整監)

津波の場合には、基本的にはサイレンが鳴るという形になっています。時々行方不明者が出て警察の方から協力をしてくれということで防災無線を流させてもらったりしますが、そういった場合でもチャイムでお願いをしています。声がおとなしいかどうかは、放送を頼む人の声がありますので、その辺はご勘弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

8 市長あいさつ

本日はいろいろお忙しい中、こうしてお集まりをいただき、意見交換の時間持たせていただきましてありがとうございます。まだまだ、しっかり考えて地域のために取り組みをし、改善を図らなくてはいけないことがたくさんありますので、そういう意味で我々も責任重大だと思います。醇風地区の今後のまちづくり協議会の活動につきましても、市で引き続きしっかり応援させていただきたいと思っていますので、積極的な取り組みを、期待をさせていただきたいと思っています。さらに、今、鳥取市で一番全国的にホットなものとしては、砂の美術館というのがあるんですが、砂の彫刻、これはもう見たよと言われるかもしれません。今年は、ロンドンオリンピックのあるイギリスをテーマにしている、醇風小学校の子どもたちが行ったかどうか確認はしていないんですが、保育園児とか、小学生などには積極的に行っていただくようお願いもしています。もちろん子どもたちがまとまって行くときには、学校の教育活動の一環ですので、引率の皆さん含めて無料ということですよ。

この砂の美術館の観光客が、4月18日オープンから5月、6月、7月の3ヶ月にならないぐらいで、20万人近くまで来ているということです。ただ、残念なのが、やっぱり地元の皆さんがあまり行っていただけていないということでして、公民館のいろんな活動とか老人クラブの皆さんとかぜひ機会を見て行っていただきたいと思います。また、夏休み、お盆の頃など知り合いが帰ってきたらあそこに行ってもらおうというような方には、市民の皆さんに特別のパスポート券を1,000円で買うことができますので、これなどを利用していただくと、何回でも行けます。いろんなイベントが砂の美術館の中にありますので、それも楽しんでいただけるとと思います。ご案内を申し上げて、ぜひ砂の美術館へ行っていただきたいと思います。

醇風地区の皆さんの日頃の地域づくりの取り組み、防災訓練や様々な取り組みが、これからは皆さんの手で活発になり、文化的な活動、ここで私はオカリナ演奏などを聞いたりして歌を歌ったりしたこともあります。いろんな活動があるので、ぜひそういったことが盛んになるようにという期待を申し上げまして、締め括りのご挨拶にさせていただきます。本日は、本当にありがとうございました。